shindaiwa

取扱説明書

携帯用発電機

iEG950

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

⚠注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに

新ダイワ発電機をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、本機の正しい取り扱い方法と簡単な点検・整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
安全な運転、および本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前には必ず本書をよくお読みいただき、ご使用時には携帯していただきますようお願い申し上げます。

本取扱説明書では正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を次のシンボルマークで表示してあります。

⚠警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合。

⚠注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合。

要 点

正しい操作方法や点検整備上のポイントを示し、取り扱いを誤ると、本機やその他のものが損傷する可能性がある場合。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合があります。
- 保証書はよくお読みいただきお買上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、不明な点や不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず本書を添付してください。

安全にお使いいただくために－1

- 運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および本機に貼付されているラベル全てをよく読み正しくご使用ください。本機の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習読してからご使用ください。

⚠警告

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、換気の悪い場所で使用しないでください。
  排気ガス中には有害成分が含まれていますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所、建物や遮へい物で風通しの悪い場所で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中、使用直後はマフラ部が熱くなっています。マフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や本機の故障、または火災や人身事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で本機を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。
- 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに渡してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から１メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し換気の良い場所で行なってください。燃料は、引火しやすく爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、燃料はこぼさないように注意してください。こぼれた燃料はきれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

安全にお使いいただくために－2

⚠注意

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、本機の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 感電のおそれあり、本機のアース端子より大地にアースをしてください。
- 火災のおそれあり、本機の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。

将来、本機を廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げの販売店もしくはサービス店にご相談ください。

主要諸元

項目		名称	IEG950
発電機		形式	多極回転界磁形単相交流インバータ発電機
		励磁方式	自己励磁式
		電圧調整方式	インバータ方式
	交流	定格周波数	50㎐／60㎐
		定格出力	950VA
		定格電圧	100V
		電流	9.5A
		力率	1.0
	直流	定格出力	100W
		定格電圧	12V
		定格電流	8.3A
	出力端子	交流	2－アース式コンセント
		直流	1－陸式ターミナル
		交流/直流過電流保護装置	サーキットプロテクタ
エンジン		名称	GM82PN
		形式	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン
		総排気量	80㎤
		最大出力	1.8kW（2.4PS）
		使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
		燃料タンク容量（赤レベル）	3.8 L
		定格連続運転時間（赤レベル）	約5時間
		使用潤滑油	API分類SD級以上（10W-30）
		潤滑油容量	0.4 L
		点火方式	トランジスタ方式マグネット点火
		始動方式	リコイル式
他		寸法（全長×全幅×全高）	400×330×390㎜
		乾燥質量	20㎏

重要ラベル－1

発電機を安全に使用していただくために、本体に貼付されているラベルを良く読み正しくご使用下さい。

要 点

ラベルは良く見えるように、常に手入れを行い、汚れたりはがれたりした場合には販売店にご相談の上新品と交換してください。

⚠警告 ⚠注意 ラベル

①

⚠ 警 告	
	火災や爆発により死傷のおそれがあるので ・給油時にはエンジンを停止すること。 ・給油口に火を近づけないこと。 ・燃料は赤レベル以上に入れないこと。 ・こぼれた燃料は完全にふき取ること。 ・可燃物のそばで使用しないこと。
	感電や火災のおそれがあるので ・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないこと。
	感電のおそれがあるので ・雨中使用禁止 ・ぬれた手でさわらないこと。
	排気ガスによる中毒のおそれがあるので ・換気の悪い所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。

⚠ 注 意	
	事故防止のため、使用前に取扱説明書を読み、安全に注意して正しく取扱うこと。

〒 96－

交 流

・相	単 相
・定格電圧	100 V
・定格電流	9.5 A
・定格出力	950VA
・定格出力周波数	50Hz/60Hz
・燃料の種類	ガソリン

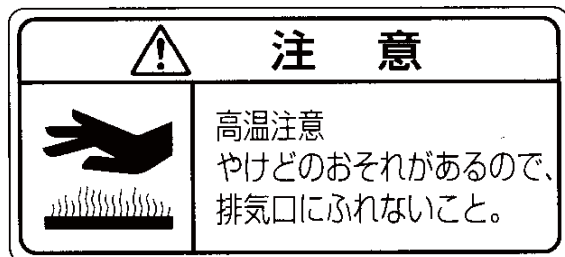
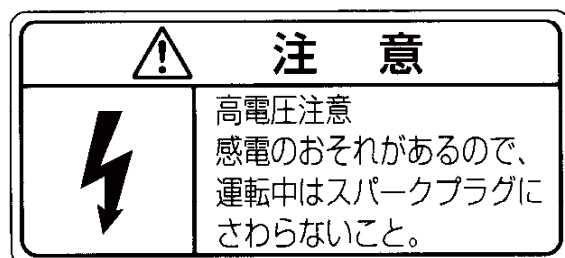
直 流

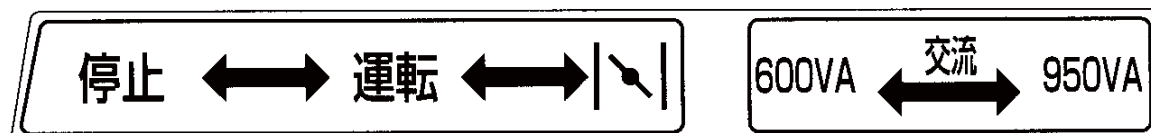
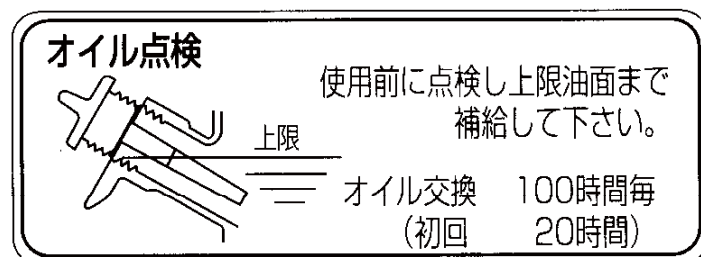
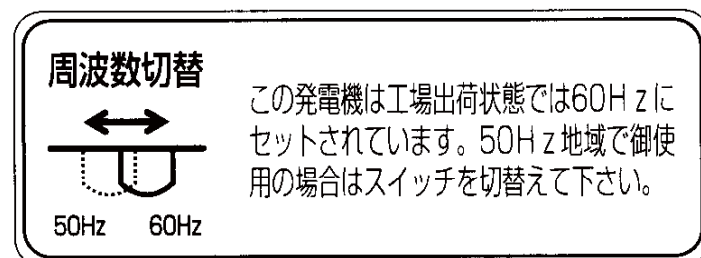
・定格電圧	12 V
・定格電流	8.3 A

（バッテリー充電専用）

新ダイワ工業株式会社

重要ラベル－2

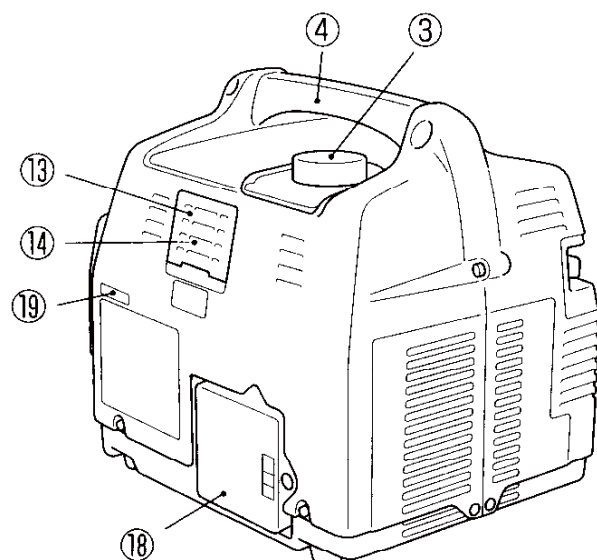
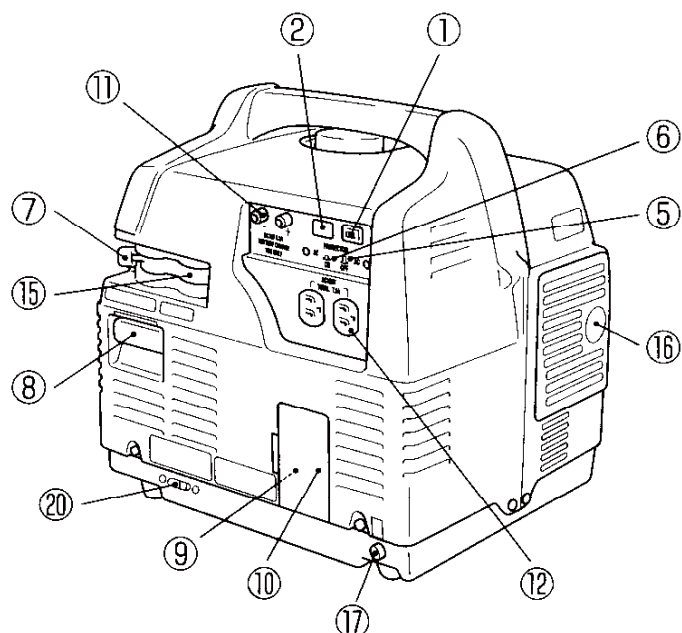
②

③

その他のラベル

④ 取扱要領

⑤

⑥ 周波数切替スイッチ

⑦ アース

⑧ 形式、製造番号

MODEL IEG950

S/N.　10000001 1D

各部の名称

①オイルセンサーランプ
②パイロットランプ
③燃料タンクキャップ
④ハンドル
⑤交流プロテクタ
⑥直流プロテクタ
⑦エンジンスイッチ
⑧リコイルスタータグリップ
⑨オイルフィラーキャップ
（オイル注入口）
⑩オイルメンテナンスカバー

⑪直流ターミナル
⑫交流コンセント
⑬スパークプラグメンテナンスカバー
⑭スパークプラグ
⑮交流出力切替スイッチ
⑯排気口
⑰アース端子
⑱エアクリーナ
⑲形式，製造番号表示ラベル
⑳周波数切替スイッチ

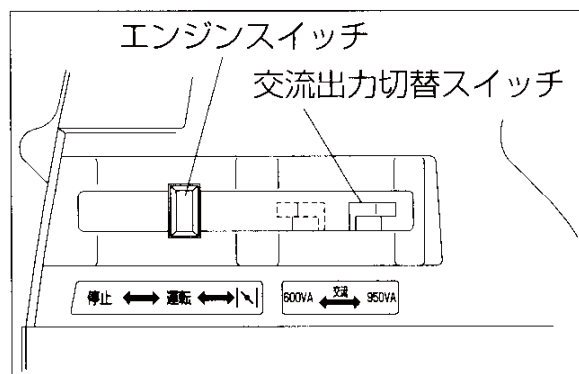
各部の取り扱い－1

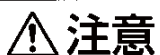
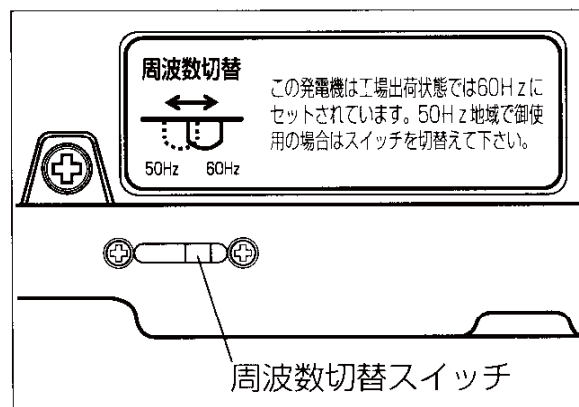
●エンジンスイッチ
点火及び燃料系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

停止　　停止および保管時のレバーの位置です。ガソリンは流れません。

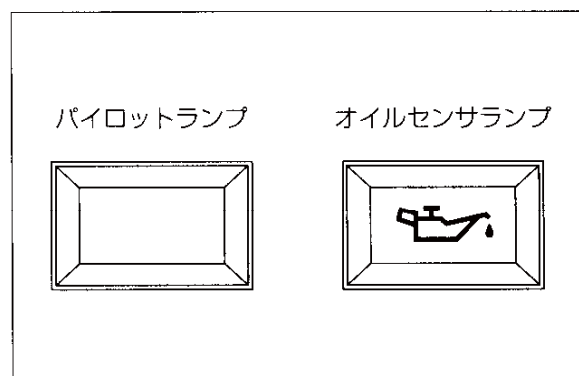
運転　　運転時のレバーの位置です。エンジンが暖まっている時はこの位置で始動できます。

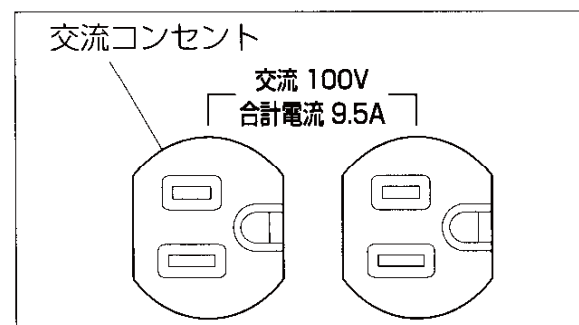
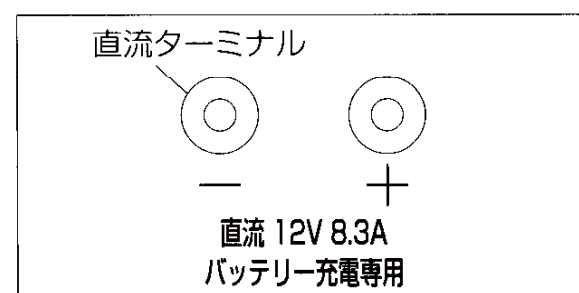
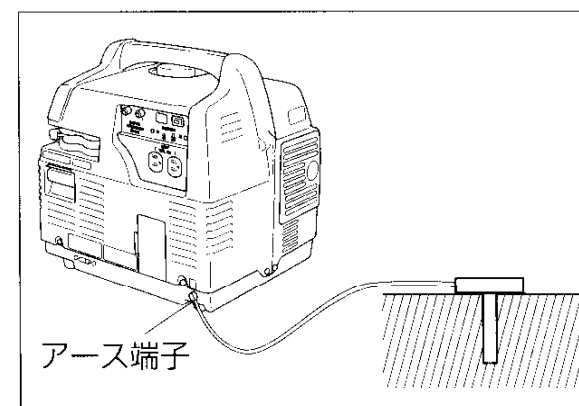
|↘|　　エンジン始動時のレバーの位置です。チョークが作動します。

エンジンスイッチの操作には、燃料コックとチョークの操作が連動しています。

●交流出力切替スイッチ
使用電気器具の負荷が小さい場合発電機の出力を下げ、騒音、燃費を軽減することができます。
950VA　定格出力950VAが取出せる。
600VA　出力が600VAに低減される。

●周波数切替スイッチ
周波数の切替え(50Hz、60Hz)を行います。工場出荷時は60Hzにセットされています。使用器具に合せ周波数を切替えて下さい。

⚠注意
切替は必ずエンジンを停止して行って下さい。

各部の取り扱い－2

● **オイルセンサーランプ**
エンジンオイル量の不足を警告するランプです。
運転中にエンジンオイル量が規定以下になるとオイルセンサーランプが点灯し自動的にエンジンが停止します。また、エンジンオイル量が規定以下の場合リコイルスタータハンドルを引くとセンサーランプが点灯し、エンジンは始動しません。

要 点
本機が傾斜しているとオイルセンサーが働き、エンジンが停止することがあります。水平な設置場所を選んで運転して下さい。

● **パイロットランプ**
エンジンを始動し電気が発電されると緑のランプが点灯します。

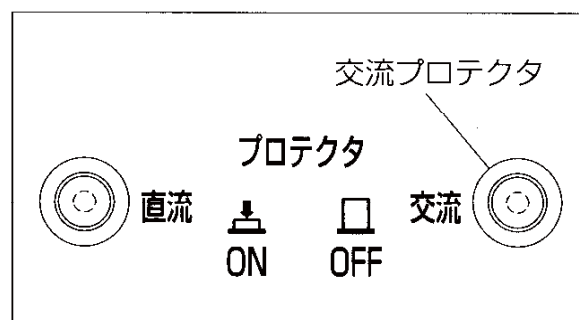
● **交流コンセント**
交流電気を取出すコンセントで、２カ所から電気が取出せます。

● **直流ターミナル**
バッテリー充電用の直流電気を取出す端子です。

● **アース端子**
感電防止のため大地にアースをする端子です。

各部の取り扱い－3

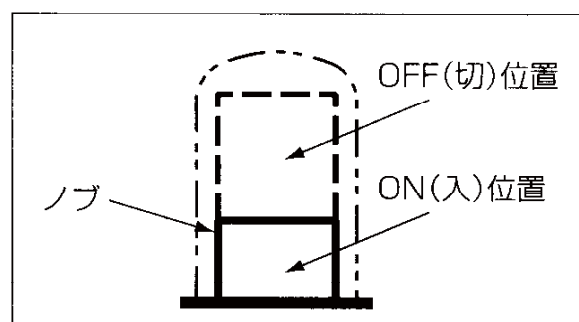
● **交流プロテクタ**

使用範囲を越えて使用したり、使用器具に異常があった場合、回路をしゃ断して発電機を保護する役目をします。

ON（入）：電気が取出せる。

OFF（切）：回路がしゃ断されて電気が取出せない。

⚠注意

発電機の使用中にプロテクターがOFF（切）の位置になった時は以下の項目を確認し、不具合の部分を解消後再びノブをON（入）の位置にして下さい。

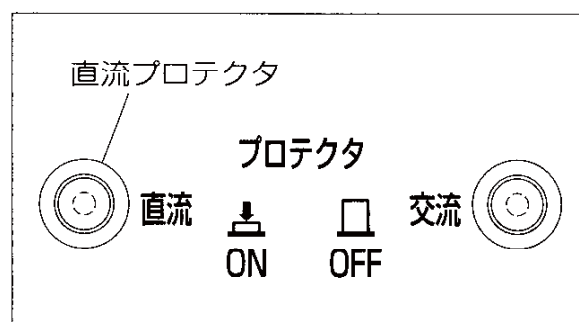
- 使用器具に異常が無いか点検をしてください。
- 電気を取出し過ぎていないか確認をしてください。

● **直流プロテクタ**

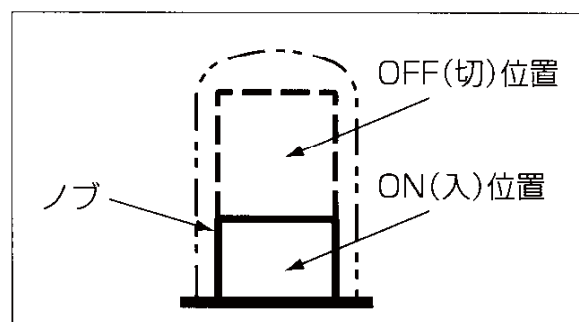
使用範囲を越えて使用したり、バッテリーに異常があった場合、回路をしゃ断して発電機を保護する役目をします。

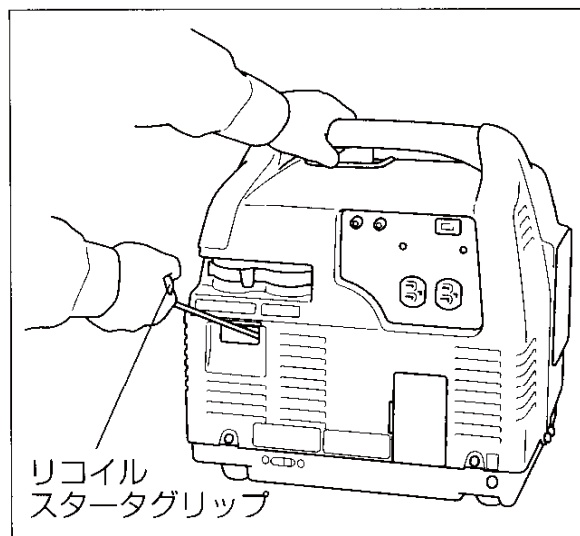
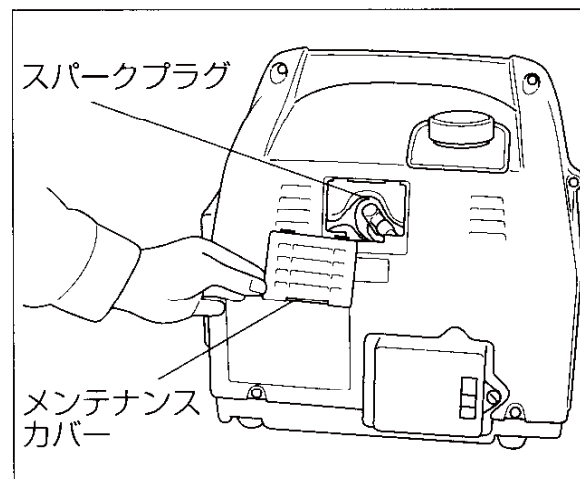
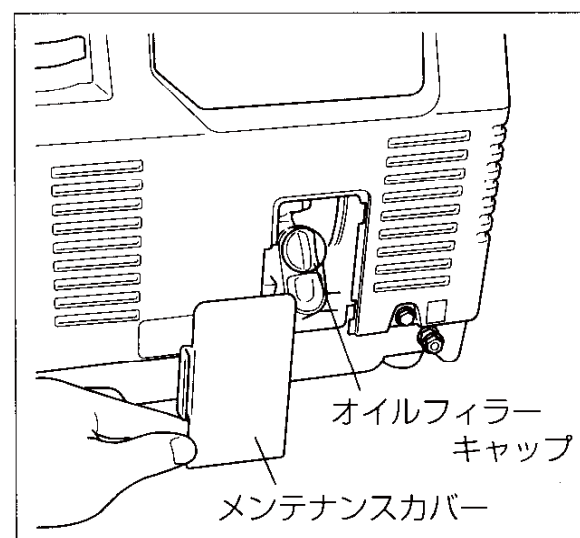
ON（入）：電気が取出せる。

OFF（切）：回路がしゃ断されて電気が取出せない。

直流プロテクタ
プロテクタ
直流
ON
OFF
交流

⚠注意

発電機の使用中にプロテクターがOFF（切）の位置になった時は以下の項目を確認し、不具合の部分を解消後再びノブをON（入）の位置にして下さい。

- バッテリーに異常が無いか点検をしてください。
- 電気を取出し過ぎていないか確認をしてください。

各部の取り扱い－4

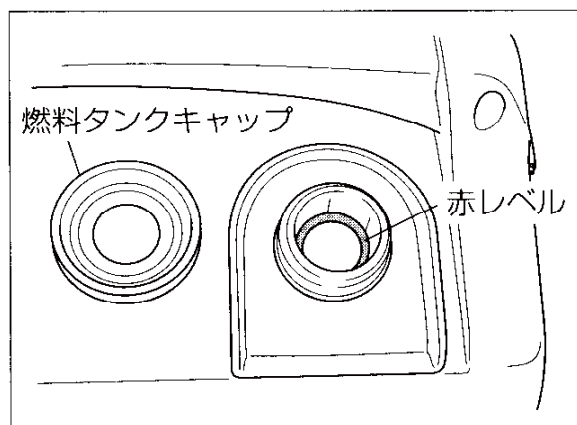
● **リコイルスタータグリップ**
エンジンを始動させるときに使用します。

● **スパークプラグメンテナンスカバー**
スパークプラグを点検、清掃するときに取外します。

● **オイルメンテナンスカバー**
エンジンオイル量を点検、補給、交換するときに取外します。

始業点検－１

⚠注意

- 始業点検を怠ると、事故の原因となり、発電機に重大な損傷をあたえます。
- 安全の為、常に発電機を良好な状態に保守してください。
- 点検は、平坦な場所で発電機本体を水平にし、エンジンを停止して行ってください。

● **燃料の点検、補給**

燃料タンクキャップを外して、燃料の残量を点検します。少ない場合は給油限界位置（赤レベル）を超えないよう補給してください。

燃料タンク容量：3.8 L（赤レベルまで）
使　用　燃　料：無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）

要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は空になる前に、できるだけ早目に補給してください。

⚠警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発性があります。次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように補給してください。こぼれたときは、ただちに布などで完全にふき取ってください。
- 燃料タンクキャップは確実に締付けてください。

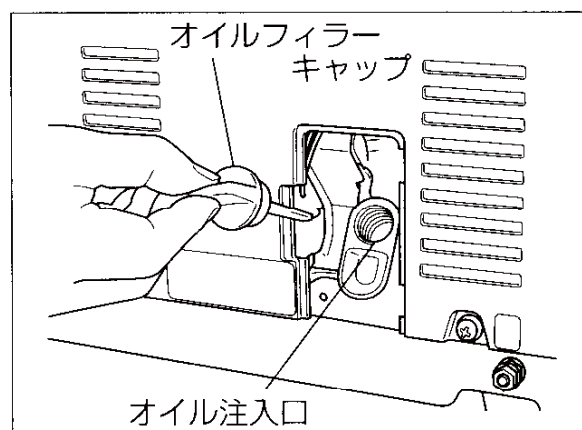
⚠注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪等の水分及び塵埃、異物等が入らないように注意してください。また燃料フィルターを取外して給油しないでください。
- 燃料は規定量以上（フィルターの赤レベル以上）給油しないでください。

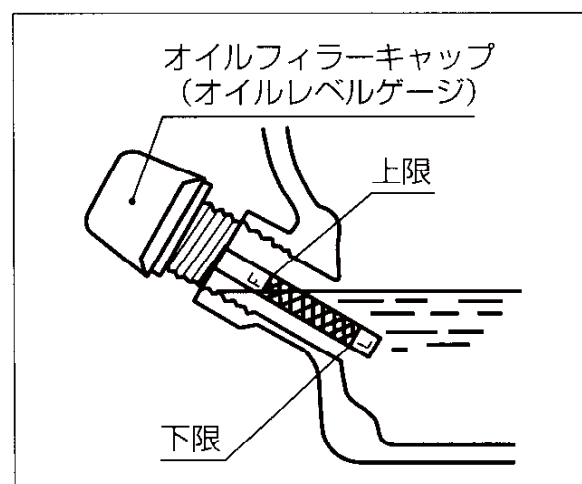
始業点検－2

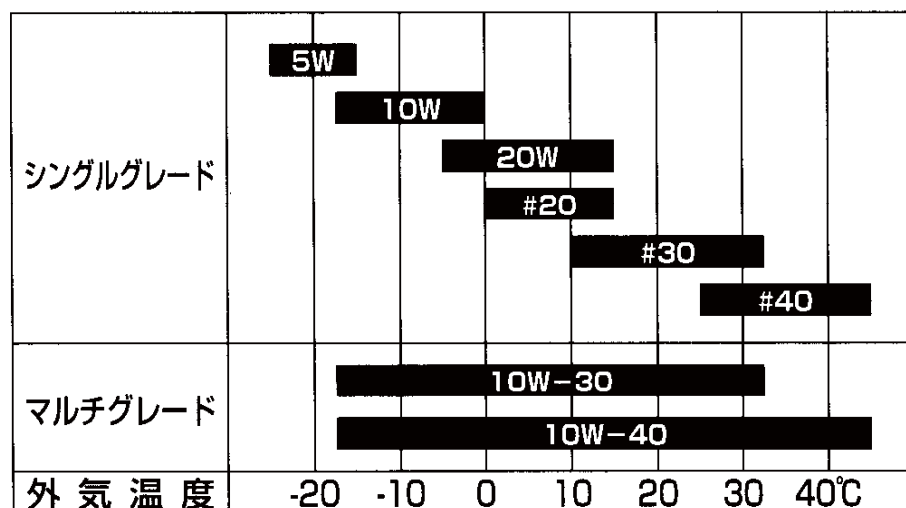
● エンジンオイルの点検、補給

オイルメンテナンスカバーとオイルフィラーキャップを外してエンジンオイルがオイルレベルゲージの上限（基準面）まであるか点検します。
少ない場合は、新しいオイルを基準面まで補給してください。

オイル量：0.4 L
推奨オイル：エンジンオイル
API分類SD級以上
SAE10W-30

注意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが入っていません。エンジンを始動する前に、エンジンオイルを給油してください。

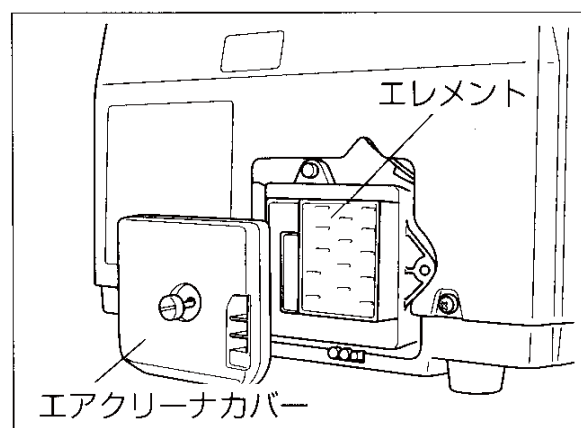
要 点

- オイルフィラーキャップは確実に締付けてください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- 寒冷時はAPI分類SD級以上のSAE5W又は5W-30オイルをご使用ください。

SAEオイル粘度表

始業点検－３

● **エアクリーナの点検**

エアクリーナカバーを取外し、エレメントの汚れを点検します。汚れのひどい場合はエレメントの清掃をしてください。（清掃方法はやさしい点検、整備を参照）

要 点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。
- カバーやエレメントは確実に取付けてください。

● **その他の点検**

各種取扱操作部の作動状態およびエンジンの調子を点検してください。

- エンジンスイッチ、出力切替スイッチの作動具合。
- リコイルスタータの作動具合およびスタータロープの損傷。
- エンジンの始動性および異音、排気色の状態。
- 交流コンセント、直流ターミナルの損傷。

● **発電機周辺の点検**

安全に御使用いただくため、発電機周辺の点検をしてください。

- 周囲に火の気や可燃物および危険部がありませんか。
- 建物および他の設置物から１ｍ以上離れていますか。
- 排気口は風通しの良い、広い場所に向けてあり換気は十分ですか。
- 設置場所は平坦で発電機が傾斜していませんか。

正しい運転操作－1

● エンジンの始動

⚠注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

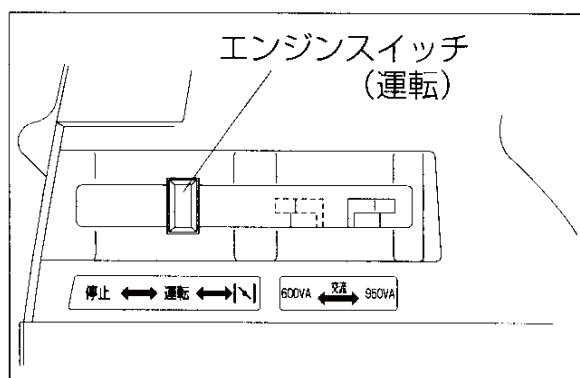
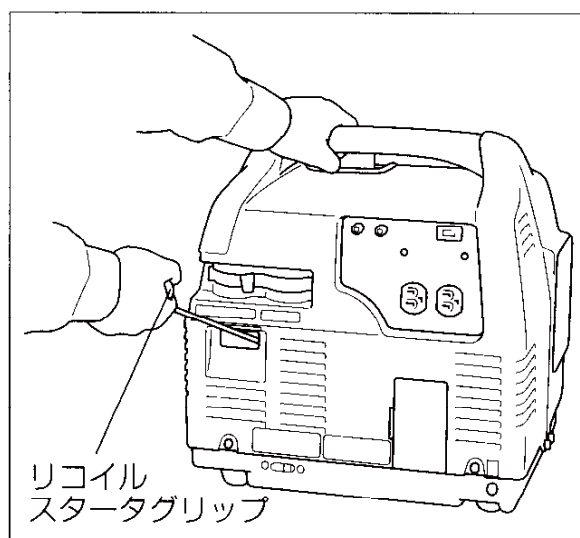
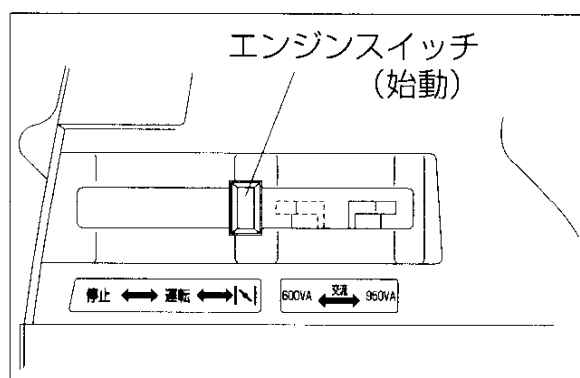
1. 燃料とオイルの量を点検します。
2. エンジンスイッチを|↘|（始動）の位置にします。
   エンジンが暖まっているときは運転の位置にします。
3. リコイルスタータグリップを軽く引き出します。
   リコイルスタータグリップが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。

⚠注意

リコイルスタータグリップを戻す時はゆっくりと戻してください。

要　点

リコイルスタータグリップを数回引いてエンジンが始動しない時は、エンジンスイッチを運転の位置にしてリコイルスタータグリップを引いてください。

4. エンジン回転数が安定したらエンジンスイッチを“運転”の位置にします。
5. しばらくの間暖機運転をします。

正しい運転操作－2

● 交流電気の取出し方

⚠警告

電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災あるいは人身事故、または本機や電気器具が故障する原因となります。

1．アース端子を接続します。

⚠注意

感電および発電機の損傷を防止する為、発電機のアース端子より必ず地面にアースをしてください。

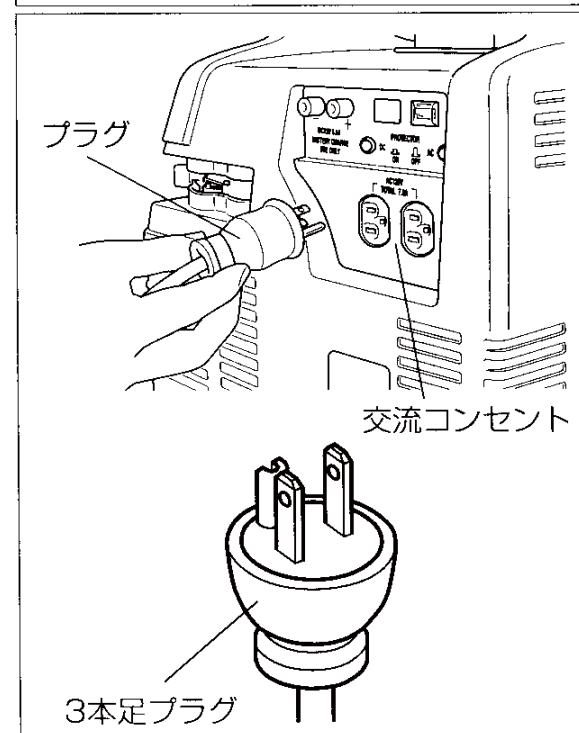
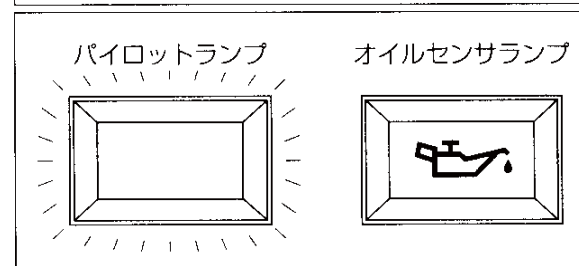
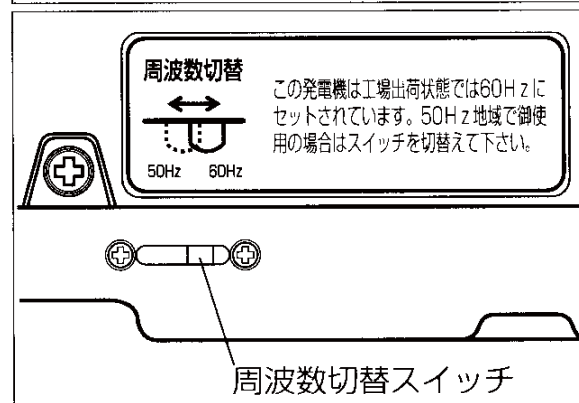
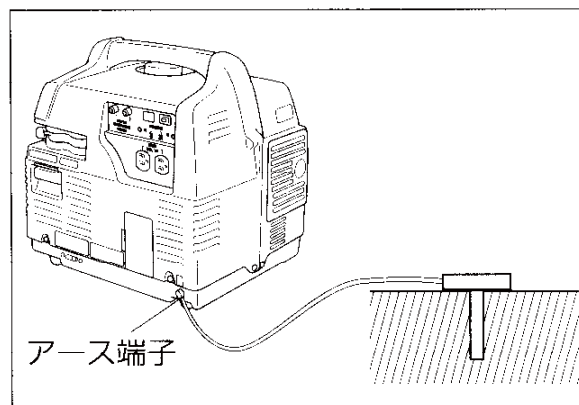
2．使用する器具に合せて周波数を切替えます。
3．エンジンを始動させます。
4．パイロットランプが点灯していることを確認します。
5．電気器具のプラグを交流コンセントに差し込みます。

要 点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

⚠注意

- プラグは接触不良、抜け、ゆるみがないよう確実にコンセントへ差し込んでください。
- プラグは図のようなアース付3本足プラグを使用してください。

6．電気器具のスイッチを入れます。

正しい運転操作－3

● **直流電気の取出し方**

12Vバッテリー充電専用です。充電以外には使用しないでください。

⚠警告

- バッテリーを取扱うときは風通しの良い所で火気を近づけないでください。またショートによる火花に注意してください。バッテリーは引火性ガスを発生するため爆発の危険があります。
- バッテリー液（希硫酸）が目、皮ふ、衣服に付くと失明やけがをひき起すことがあります。取り扱いには十分注意してください。万一、付着したときは直ちに大量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
- バッテリーに接続されているコードを取外す時はマイナス㊀側から外し、接続する時はプラス㊉側から行ってください。誤るとショートする場合があります。

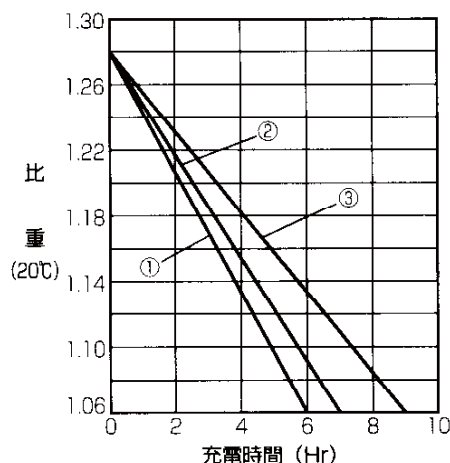
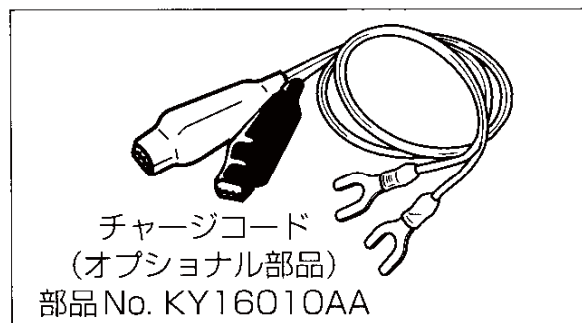
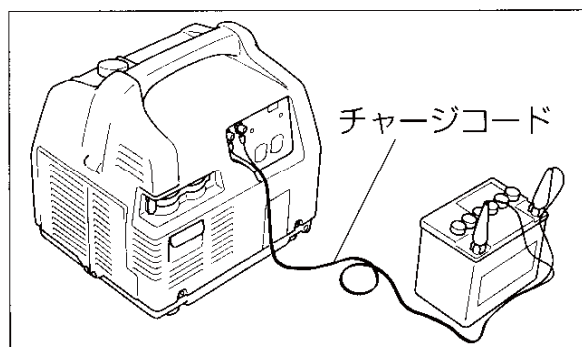
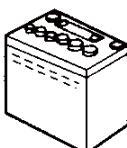
1. バッテリーに接続されているコードやチューブを取外します。
2. バッテリーの比重を測定し充電時間を決めます。
   - バッテリーの液注入口栓を外し、バッテリー液量を点検します。
     バッテリー液が不足している場合は蒸留水を上限まで補充します。
   - 比重計でバッテリー液の比重を測定し、右の表により充電時間をもとめます。
     満充電の比重は1.26～1.28です。
     バッテリーの種類、放電条件により充電時間が異なる場合があります。
     1時間おき位に確認して下さい。
3. チャージコードで直流ターミナルとバッテリー端子を接続します。

比重と充電時間の目安

⚠注意

- バッテリーへの接続は必ず専用チャージコード（別売部品）を使用してください。
- チャージコードは㊉㊀の極性を間違いなく接続してください。誤って接続するとショートする場合があります。また発電機やバッテリの故障の原因となります。

4. 発電機の出力切替スイッチを950VAに合わせ、エンジンを始動して充電します。

チャージコード
（オプショナル部品）
部品No. KY16010AA

正しい運転操作－4

● **交流、直流電気の使用可能範囲**

交流、直流電気の使用は次の電気器具の使用可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

<table>
<tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="3">使用電気器具</th><th colspan="2">使用可能範囲</th><th rowspan="3">備　　考</th></tr>
<tr><th colspan="2">出力切替スイッチ位置</th></tr>
<tr><th>950VA</th><th>600VA</th></tr>
<tr><td rowspan="3">交
流</td><td>照明・電熱器・テレビ・ラジオなど</td><td>100V
950Wまで</td><td>100V
600Wまで</td><td rowspan="3">•直流電気の取出しを併用する場合は出力切替スイッチを950VAの位置で使用してください。
またこの場合の交流電気使用可能範囲は左記の値から100Wを減じた範囲となります。</td></tr>
<tr><td>電動工具類</td><td>100V
760Wまで</td><td>100V
480Wまで</td></tr>
<tr><td>汎用モータ類</td><td>100V
430Wまで</td><td>100V
270Wまで</td></tr>
<tr><td>直
流</td><td>バッテリ</td><td>12V-8.3Aまで</td><td>—</td><td></td></tr>
</table>

⚠注意

- **電気器具の合計負荷が発電機の使用可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **電動工具・汎用モータ類の一部には使用可能範囲内であっても起動電流が大きい場合、または電気器具の状態により使用できないことがあります。**

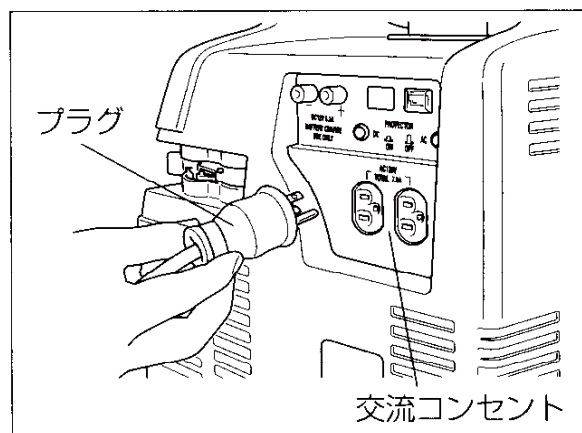
要 点

使用可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタがOFF（切）になります。

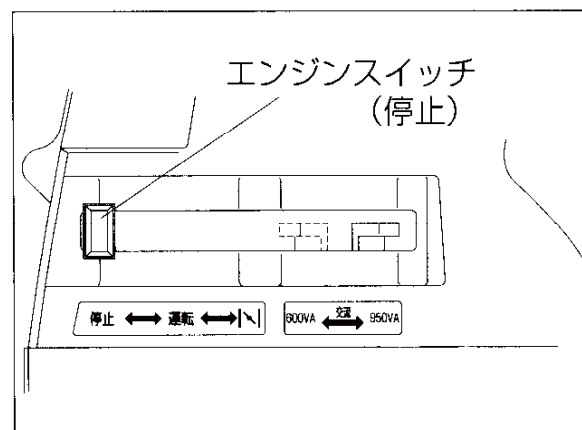
正しい運転操作－5

● エンジンの停止

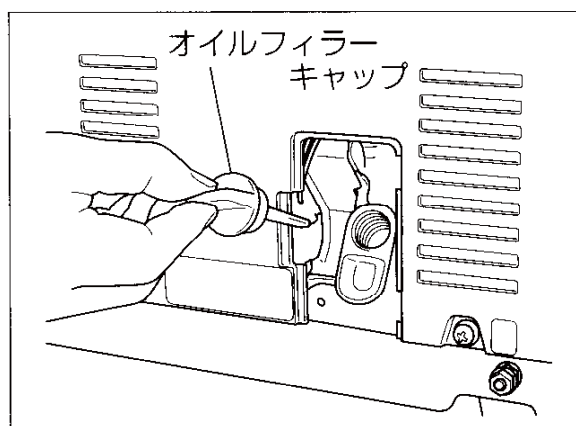
1．電気器具のスイッチをOFF（切）にします。

2．電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

3．エンジンスイッチを停止の位置にします。

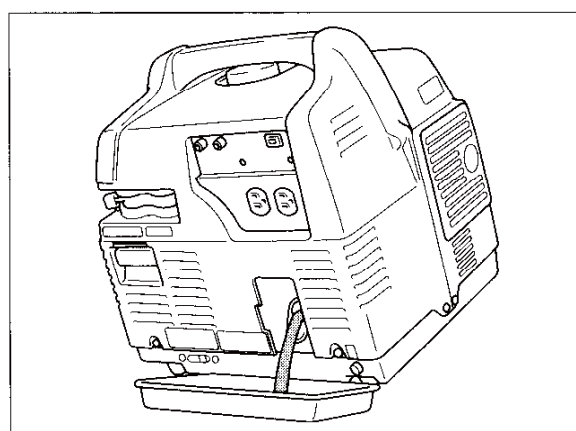
要 点

エンジンスイッチを“停止”にすると燃料コックも“閉”となります。

やさしい点検・整備－1

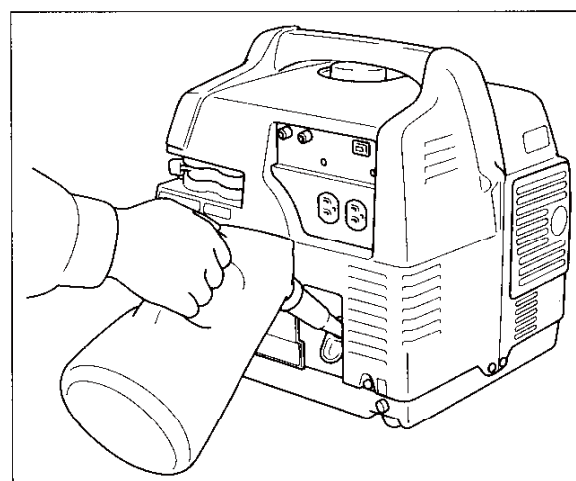
●エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し2～3分間暖機運転をします。
2. エンジンを停止します。
3. オイルメンテナンスカバーを外します。
4. オイルフィラーキャップを外します。

5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

要 点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換してください。

6. 新しいオイルをオイルレベルゲージの上限（基準面）まで給油します。
   オ イ ル 量：0.4 L
   使用オイル：エンジンオイル
   API分類SD級以上
   SAE10W-30

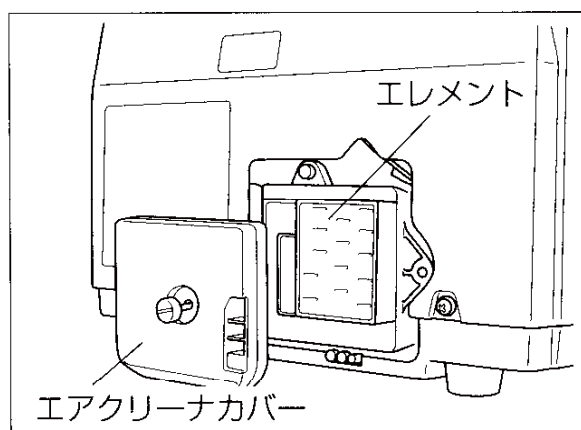
要 点

• エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行なってください。
• こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

7. オイルフィラーキャップを締め付けます。
8. オイルメンテナンスカバーを取付けます。

やさしい点検・整備－2

● エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナが汚れていたり、エレメントが目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなりますので定期的に清掃してください。

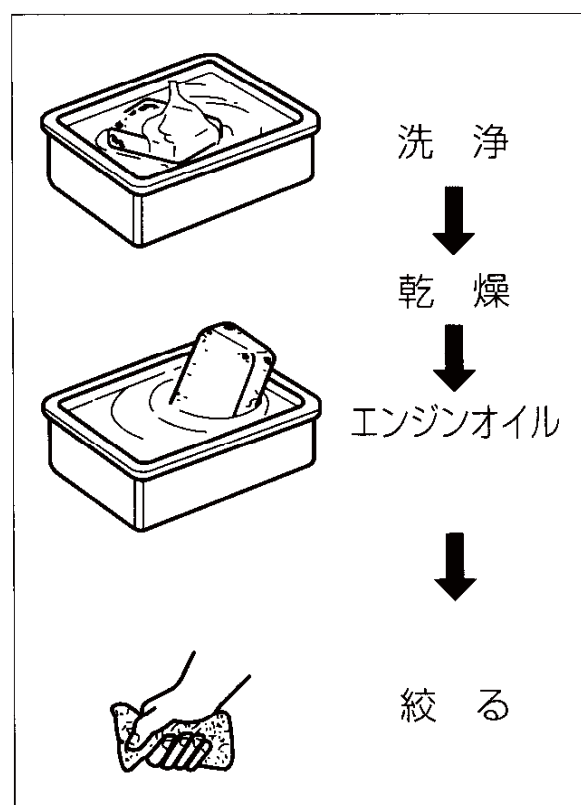
1. エアクリーナカバーを外しエレメントを取出します。

2. エレメントを洗い油でよく洗浄し乾燥後きれいなエンジンオイルに浸し、固く絞ります。

⚠警告

- **洗い油は引火しやすいので、火気を近付けないでください。火災を起こす可能性があります。**
- **洗浄は換気の良い場所で行ってください。**

3. エレメントをケースに納め、エアクリーナカバーを組付けます。

要 点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。カバーやエレメントは確実に取付けてください。
- 50時間運転毎に定期清掃してください。ほこりのひどい場所で使用した場合は、定期時期より早めに清掃してください。

やさしい点検・整備－3

●スパークプラグの点検と清掃

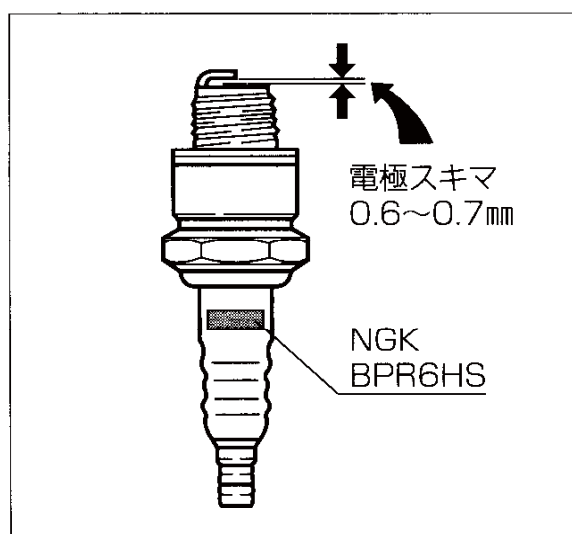
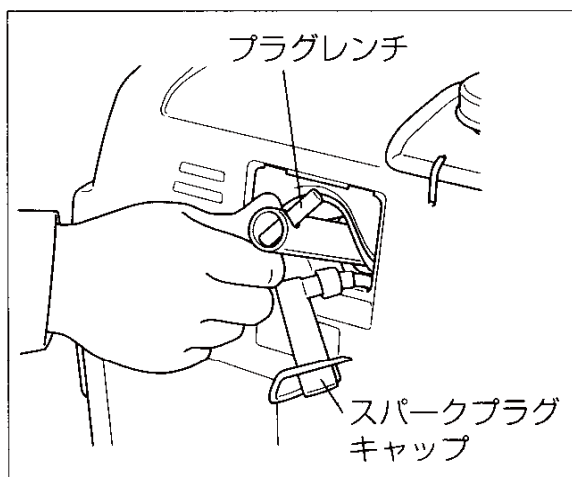
スパークプラグの電極が汚れていたり、摩耗するとエンジン不調の原因となります。定期的に点検、清掃してください。

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、スパークプラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。

1. スパークプラグメンテナンスカバーを取外しスパークプラグキャップを外します。
2. 付属のプラグレンチを使用し、スパークプラグを外します。
3. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検してください。
4. 電極付近の汚れ（カーボン）を落します。
5. 電極隙間を点検します。
   指定スパークプラグ：NGK　BPR6HS
   電 極 ス キ マ：0.6～0.7㎜
   点検・清掃時期：100時間運転毎
6. スパークプラグを取り付けます。

要 点

- スパークプラグの取り付けはネジ山を壊さないように、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って確実に締め込んでください。
- エンジン故障の原因となるので指定以外のスパークプラグを使用しないでください。

定期点検と長期保管

● **定期点検**

発電機の故障と事故を未然に防ぎ、安全にご使用いただくため定期的に点検を実施してください。

⚠警告

- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラ周辺などは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきった室内や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はしないでください。

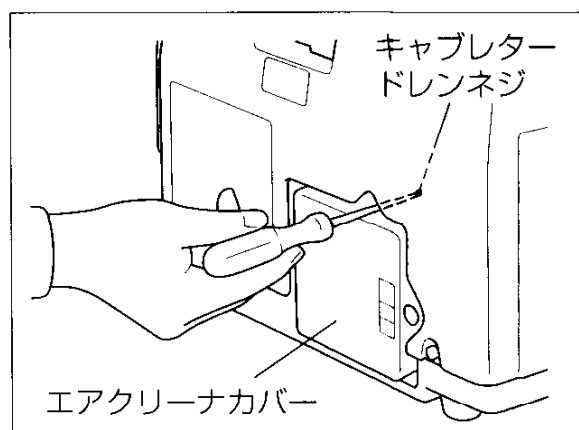
点検項目と時期

点検整備項目		点検時期				
		始業時	初期 20時間毎	3カ月又は 50時間毎	6カ月又は 100時間毎	1年又は 300時間毎
燃料	漏れ、量の点検	○				
燃料タンクフィルター	清掃			○		
燃料ストレーナー	交換					●
燃料パイプ	亀裂、点検					●
エンジンオイル	漏れ、量の点検	○				
	交換		○		○	
エアクリーナエレメント	点検	○				
	清掃			○		
スパークプラグ	点検、清掃				○	
リコイルスタータ	作動、ロープの損傷	○				
スイッチ類、操作パネル電装品	作動、損傷	○				
本体各部の締付部	点検、締付				●	
シリンダヘッド	カーボンの除去					●
バルブクリアランス	点検、調整					●

●印の点検、整備は販売店またはサービス店に依頼してください。

● **長期保管**

長期間運転しない場合、または長期間保管する場合は次の手入れを行なってください。

- 各部をきれいな乾いた布で清掃します。
- エンジンオイルを交換します。
- エアクリーナを清掃します。
- キャブレター内のガソリンを抜きます。
  燃料タンク内の燃料を抜きとったあとキャブレターのドレンネジより燃料を排出してください。
- リコイルスタータを引張り、重くなった所で止めておきます。

⚠注意

- 長期保管の整備を行う時は、火気厳禁です。火気を近づけないでください。
- 長期保管の整備を行う時は、換気の良い場所で行ってください。
- 抜き取った燃料は、適切な処理をしてください。

故障診断

故障の多くは不十分な点検や取り扱いの不慣れに起因しています。
故障が生じた場合は下記により点検し、なお異常のあるときは、できるだけそのままの状態でお買いあげの販売店にご相談ください。

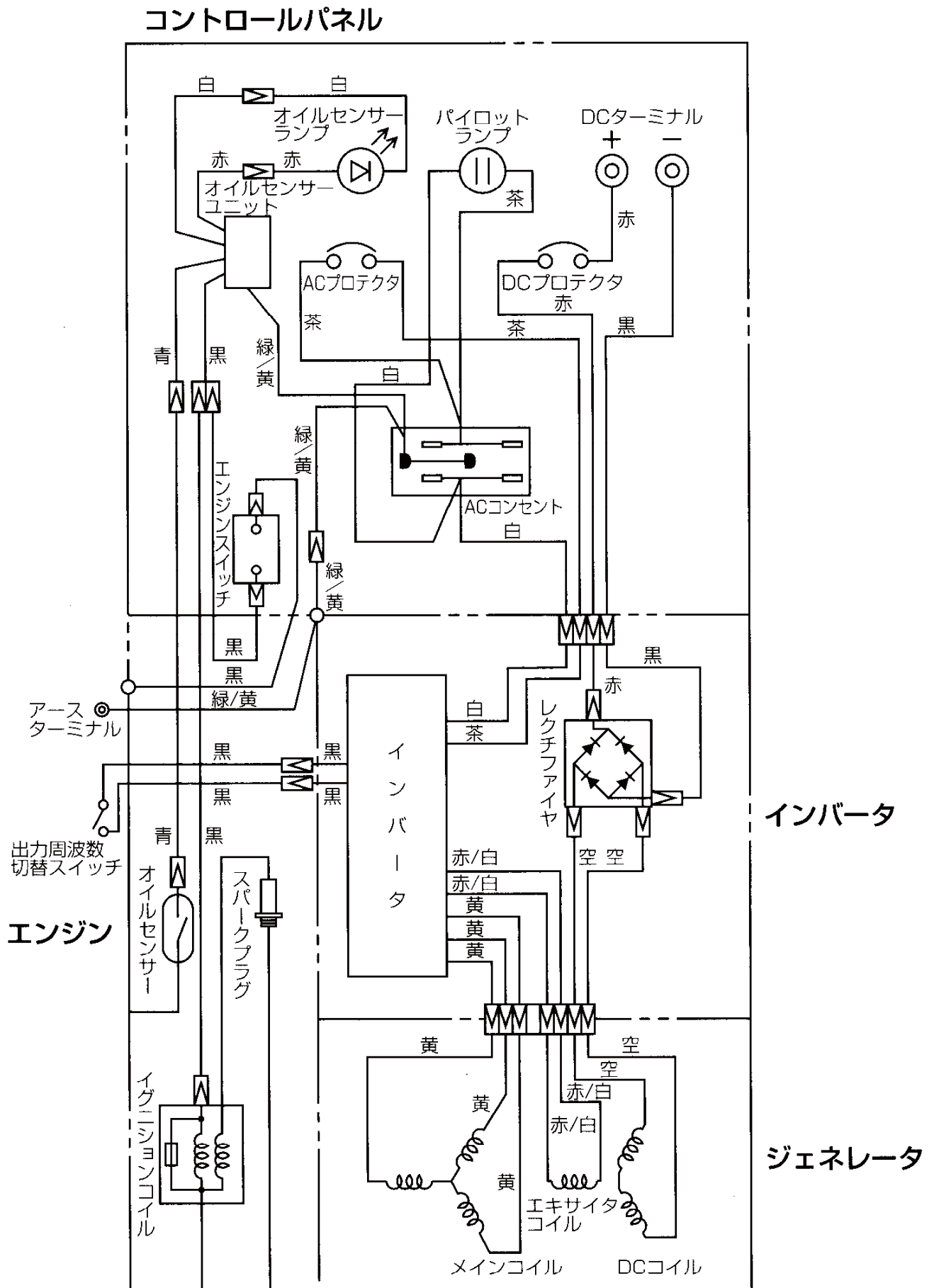
●エンジンが始動しない

原　　因	対　　処
•燃料が空になっている。	•燃料を補給する。
•燃料パイプが目詰りしている。	•燃料パイプを清掃する。
•燃料ストレーナが目詰りしている。	•燃料ストレーナーを交換する。
•キャブレタが目詰りしている。	•キャブレタを清掃する。
•スパークプラグが汚れている	•スパークプラグを清掃し乾燥させる。
•スパークプラグの電極スキマが正常でない。	•電極スキマを正常値に調整する。
•エンジンオイルが不足している。	•エンジンオイルを補給する。

●電気が取出せない

原　　因	対　　処
•交流、直流プロテクタがOFF（切）になっている。	•交流、直流プロテクタをON（入）にする。
•使用電気器具の消費電力が発電機の使用範囲を超えている	•使用範囲内の電気器具を使用する。
•差し込みプラグとコンセントの接触が不完全。	•電気器具の差込プラグを確実にコンセントに差し込む。

配 線 図

コントロールパネル
白
白
オイルセンサーランプ
パイロットランプ
DCターミナル
+
−
赤
赤
オイルセンサーユニット
茶
赤
ACプロテクタ
DCプロテクタ
赤
茶
茶
黒
青
黒
緑/黄
白
緑/黄
エンジンスイッチ
ACコンセント
白
緑/黄
黒
黒
黒
緑/黄
アースターミナル
白
茶
赤
レクチファイヤ
黒
黒
黒
黒
インバータ
出力周波数切替スイッチ
青
黒
赤/白
赤/白
黄
黄
黄
空
空
エンジン
オイルセンサー
スパークプラグ
黄
空
空
赤/白
黄
赤/白
イグニションコイル
黄
エキサイタコイル
メインコイル
DCコイル
インバータ
ジェネレータ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　Tel 082-849-2005（代）

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。